

JBC 第46回全日本高校ボウリング選手権

8月3・4日
稲沢グランドボウル

男子 1年生の安田知弘選手が金星 女子 石田万音選手最終Gの逆転V

JOCジュニアオリンピックカップ・第46回全日本高校ボウリング選手権大会が、8月3、4の両日、愛知・稲沢グランドボウルで開催された。男子207名、女子101名が参加して熱戦を繰り広げたが、男子は安田知弘選手(岐阜県立大垣工高)が1年生で制すれば、女子は2年生の石田万音選手(神戸野田高)が昨年準Vのリベンジを果たした。

男子

予選(9G)はスコアメイクに苦戦する選手が多いなか、1回戦を725と好スタートの安田選手が、トータル2013の1位で決勝に進み、2位の紺谷涼太選手(北海道帯広南商高)に94

ピンの差をつけていた。「紺谷くんは全中で優勝もしているの、3Gで94ピン差というのは、あってないようなものと考えていました」と安田選手。しかし決勝(3G)は、1G目192のあと、2G目226、最終

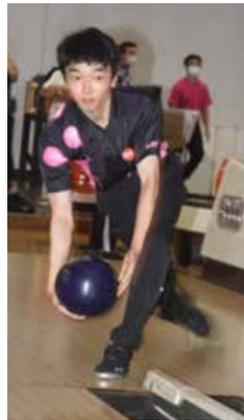
G228と2位以下の選手に付け入るスキを与えず、トータル



▲「ロフトとか、いろんな投げ方ができるようになったことが、今回のレーン攻略にも生きた」と1年生で頂点に立った安田選手



▲濱崎選手との大接戦を制した石田選手「濱崎さんはよきライバルであり、戦友です。決勝で競えただけでもすごくうれしかった」



▲予選1回戦の出遅れが響いて2位の愛甲選手に全中、全中を取っているの、来年全国優勝を目指します



▲3位の紺谷選手「マイナスのシリーズが一つなかったのはよかった。団体は優勝を狙います」



▲男子優勝の安田選手と女子優勝の石田選手

2659で優勝を飾った。予選5位の愛甲雅治選手(宮崎県立宮崎南高)が651を打って、2542で2位に食い込み、紺谷選手は2522で3位にとどまった。

女子

ともにユースナショナルチームに在籍し、互いをライバルと認め合う濱崎りあ選手(神奈川県立綾瀬西高)と石田選手が予選から抜きつ抜かれつのデッドヒートを展開した。

濱崎選手が41ピンのリードで迎えた最終G、石田選手が1フレから6連発で逆転したが、



▲上位の2人には離されたが1年生で3位に入った我孫子選手「できることはやったので満足です」



▲最終Gに逆転を許し2位の濱崎選手「妹(姉)が全中で優勝して、自分も思っていたので悔しい」

逆に「急に緊張してきて手が震えだした」と、7フレは④⑨のスプリットでオープン。濱崎選手がピン差リードの10フレ勝負は、1投目ともにストライクのため、2投目は濱崎選手が⑩ピンが飛ばなかったのに対し、石田選手はパンチアウトを決めて、8ピン逆転する2583で初優勝を飾った。予選を3位の我孫子美葵選手(宮城・古川学園高)が2459で3位のポジションを守った。

第12回全日本小学生競技大会

8月6・7日/稲沢グランドボウル

4年生から6年生157名が熱投

第12回全日本小学生ボウリング競技大会は、小学4年生から6年生の男女157名が参加して熱戦が繰り広げられた。競技は各部門、予選9Gの上位2名を決勝に選出、決勝は1Gマッチで優勝が争われた。

〔6年生の部〕

男子は高橋望選手(ひたちなか市立中根小)が、予選で断トツの2028(Avg.225.3)を打って決勝に進んだが、決勝は2位通過の中川結雅選手(開智学園総合部)が237:195で高橋選手を退けた。女子は、予選を1665で1位の奥田琴弓選手(山口大学付属山口小)と1636で2位の藤原彩花選手(宇治市立西小倉小)の対戦となったが、奥田選手が178:161で優勝した。

〔5年生の部〕

男子は、大接戦の予選を1位

通過の石原昭太郎選手(名古屋市立千鳥小)が、2位通過の田中謙臣選手(宇都宮市立錦小)を225:173で下して優勝した。女子は、予選を関根井文音選手(札幌市立開成小)が1379で、松田寿夏選手(海老名市立今泉小)を2ピン抑える1位だったが、決勝は松田選手が163:159と4ピン差で優勝を飾った。

〔4年生の部〕

男子は、予選1位の國澤宇一選手(名古屋市立平子小)と2位の志賀勇斗選手(一宮市立神山小)の愛知県勢の対決となったが、國澤選手が223:176で快勝した。女子は、予選から松尾悠月選手(瀬戸市立西陵小)と井村瑠菜選手(取手市立寺原小)のマッチレースだったが、決勝は松尾選手が147:137と10ピン差で優勝した。



▲6年生男子優勝・中川選手



▲5年生男子優勝・石原選手



▲4年生男子優勝・國澤選手



▲6年生女子優勝・奥田選手



▲5年生女子優勝・松田選手



▲4年生女子優勝・松尾選手